

2020年度(令和2年度)学校評価自己評価表

福山市立培遠中学校区	校番 59	福山市立日吉台小学校
最終更新日		2020年(令和2年)10月28日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見力、論理的思考力、コミュニケーション能力、実践力
<ul style="list-style-type: none"> 引き続き小中9年間で子どもたちを育てる取組を継続して欲しい。 学校が抱える課題(特に数値で見えない子どもの課題)も地域と共有し、今後も地域と連携してもらいたい。 働き方改革を進め、先生方にも元気に子どもに接してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつなど。当たり前をひたむきに取り組もうとする児童・生徒が多い。 中学校における長期欠席の生徒は全体の7.5%であり、教室に位置付けない生徒もいる。 小さな人間関係トラブルを、当事者同士で解決できず、大きいトラブルになることがある。 素直で前向きな子が多いが、身の回りの課題を自分事として捉えたり、改善に向けて行動したりする子が少ない。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる子ども
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 「かく」活動や対話を通じた言葉の力の育成 子ども主体の授業づくり あいさつ運動の実施 地域貢献活動の実施

III 自校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見力	論理的思考力	コミュニケーション能力	実践力	
社会の一員としての自覚を持ち、自ら「夢」に向かって挑戦する、自律した子どもを育成する。	めざす子ども像	低学年	「不思議だな」「何故かな」を見つけることができる。	事柄や時間の順序を整理しながら考えることができる。	自分の思いや考えを相手に伝えることができる。	自分がすることを最後までやり抜くことができる。
学校教育目標		中学年	自ら問いを見つけ、既習内容や方法で解決することができる。	因果関係を整理し、筋道を立てながら考えることができる。	自分の考えと相手の考えを比べながら伝え合うことができる。	自分がすることを考えて、目標を持って最後までやり抜くことができる。
自ら気づき、考え、判断して行動する子どもの育成		高学年	自ら問いを見つけ、見通しを持って調べたり、考えたりしながら、解決することができる。	因果関係を整理し、筋道を立てたり、根拠を明確にしたりしながら考えることができる。	多様な考えを受け入れながら、自分の考えを伝えることができる。	自分の役割を自覚し、役に立つ喜びを感じながら行動することができる。
現状	研究	教科等	算数科 家庭科			
<p><児童></p> <ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査は、国語・算数ともに県平均以上であるが、数学的な考え方に課題がある。 意識調査「自分にはよいところがある」は80%、「自分はクラスや学校の中で役立っている」は69.9%であり、自分の役割を自覚し行動しているが、役に立っていると感じていない児童が多い。 長期欠席児童は10名である。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 意識調査「授業で考えることが面白い」は82.7%、「自分の考えは認められている」は74.2%である。 全員が一律に取り組む学習だけではなく、児童が学び方や取り組む順番など、自分で選択できる内容を単元に位置付けるようにしている。 児童の問いが生まれるような導入、多様な活動を取り入れた展開により、学習意欲の向上に努めている。 	主題・内容等	学ぶ楽しさを味わい、学び合うよさを実感できる授業づくり				
	めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが、「面白い」「もっとやりたい」「できた」「わかった」と実感する授業 子どもの問いが生まれる授業 子どもが課題に気づき、対話したり解決方法を自分で選択したりする授業 				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価 4月8日更新

福山市立日吉台小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70以上 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70以上 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	主体的に 学ぶ力の 育成	★	見直 し	<ul style="list-style-type: none"> 自ら学ぼうとする意欲を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元に自分のペースで取り組む時間と内容を位置付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業で考えることが面白い」「自分で考えた方法で学んでいる」の肯定評価80%以上 	<input type="checkbox"/> 「授業で考えることが面白い」85.5% <input type="checkbox"/> 「自分で考えた方法で学んでいる」80.4%	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 「選択する学び」についての研修を行い、できる学年、教科から取り組み、学びづくりタイムで紹介し合う。 					
			継 続	<ul style="list-style-type: none"> 自らの目標を決め、学び方を考えながら学力の定着を図る授業をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な方法で繰り返し学習を行う。 つまずき状況に応じた個別の改善策を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の考えは認められている」「授業が分かる」80%以上 学期末確認テスト国語・算数85%以上 	<input type="checkbox"/> 「自分の考えは認められている」77.6% <input type="checkbox"/> 「授業が分かる」88.2% <input type="checkbox"/> 1学期末確認テスト 国語 81.7 算数 79.0	3	3	<ul style="list-style-type: none"> タブレット等を活用した学習を取り入れながら、自分で目標を立てて取り組む経験を重ねる。 					
1	自らに自信を持つとともに、相手を思いやる心の育成	★	見直 し	<ul style="list-style-type: none"> 係活動、委員会等で自分の役割を自覚し、協働してやり抜く力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 係や委員会活動に自分たちで考えて決める内容を取り入れる。 多様な活動の機会、安心して過ごせる場所を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学級や委員会での役割を果たしている」80%以上 「自分には良いところがある」85%以上 長期欠席者前年度数40%減 	<input type="checkbox"/> 「学級や委員会での役割を果たしている」88.2% <input type="checkbox"/> 「自分には良いところがある」85.6% <input type="checkbox"/> 長期欠席者前年度数90%減	3	3	<ul style="list-style-type: none"> フレンドリー集会を学期に1回行い、一人一人が目的や役割を持って参加する。 いじめ防止研修を2か月に1回行い、PDCAで取り組んでいく。 					
3	自らの生活を律するたくましい心と体の育成		見直 し	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことの楽しさを自覚し、自ら体力づくりに取り組む態度を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会や学級、学年でスポーツ活動を工夫する。 意欲を喚起する指導についての職員研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 週3回以上外遊びをする児童70%以上 新体カテスト県平均以上の項目70%以上 	<input type="checkbox"/> 「週3回以上外遊びをしている」72.7% <input type="checkbox"/> コロナウイルス感染症による臨時休業の影響で、新体カテストを実施できていない。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 元気委員会による、遊び道具の貸し出しや、レク(月に1回以上)を行っていく。 体育の授業の最初にサーキットトレーニングを行い、運動の基礎を身につけることができるようにする。11月に学校で新体カテストを行う。 					

		新規	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣を自分でマネジメントしようとする態度を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の生活習慣を振り返らせるとともに、自己目標を立てさせ家庭と連携した取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分で早寝・早起き・テレビの視聴時間管理に取り組んでいる」80%以上 「毎日朝ごはんを食べている」95%以上 	<input type="checkbox"/> 「自分で早寝・早起きに取り組んでいる。」76.9% <input type="checkbox"/> 「テレビなどの視聴時間管理に取り組んでいる。」70.1% <input type="checkbox"/> 「毎日朝ごはんを食べている」93.6%	3	3	<ul style="list-style-type: none"> アウトメディアチャレンジを学期に1回行う。前回の結果を返却し、一人一人が目標を持って取り組むことができるようにする。 朝ご飯を食べてきていない児童を把握し、個別に声かけを行っていく。 				
3	保護者・地域から信頼される学校づくり	継続	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・地域の満足度の高い学校づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校、学年、学級通信の発行、ホームページ等で取組を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校の取組がよくわかる」「学校が楽しいと言っている」80%以上 	<input type="checkbox"/> 「学校の取組みがよくわかる」51.8% <input type="checkbox"/> 「学校が楽しいと言っている」87.3%	3	2	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信の方法を検証し、多様な方法を取り入れる。 				
2	教職員がやりがいと充実感を持ち、元気に働ける環境づくり	継続	<ul style="list-style-type: none"> 授業づくりや児童に関わる時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の見直しを継続する。 教職員が見通しを持って業務遂行できるよう早目に計画立案を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務月45時間以上0人 「授業づくりにあててる時間が確保できている」と感じる教員90%以上 	<input type="checkbox"/> 時間外勤務月45時間以上の教員0人 <input type="checkbox"/> 「授業づくりにあててる時間が確保できている」と感じる教員100%	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 目的と方法を検証しながら教育課程の見直しを継続する。 引き続き、教職員が時間的にも、内容的にも見通しを持ち、業務を行う。 				
		★ 新規	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学校運営に参画しようとする体制づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各自が校務分掌上の課題を見つけ、改善策を提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「仕事に意義とやりがいを感じている」教員95%以上 	<input type="checkbox"/> 「仕事に意義とやりがいを感じている」教員100%	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 三部会やチャットタイム、自主研修で、課題を共有し、各自が学校運営に関わっていく。 				

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。